

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国英語教育研究団体連合会

(代表者 石田 健司 会員数 約60,000人)

T E L 03-3267-8583

1 前文

今年で6年目となる共通テストは、2022年4月の高等学校の学習指導要領の改訂に伴う新課程テストであった。昨年度までと同様に、過去のセンター試験で出題された発音やアクセント、語順整序等を単独で問う問題はなく、様々な資料や図表を通して英文を読み、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっている。情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する、という学習指導要領における目標を反映した出題となっている。

今年の共通テスト追・再試験『英語（リーディング）』では、昨年度に引き続き、2022年に発表された試作問題を反映した出題がなされた。「立場の異なる5人の意見を読んで、論拠を整理する」ことを求める試作問題第A問を反映した問題が第8問で、「読み手に分かりやすいように情報を整理し、文章の論理構成や展開等について考える」ことを求める試作問題第B問を反映した問題が第4問で出題された。「5領域の力を総合的に育成する「英語コミュニケーションⅠ」「Ⅱ」と、発信力の強化をねらいとした「論理・表現Ⅰ」の内容に対応」という改訂のねらいが十分に達成されたかについては後述するが、試作問題および昨年度に始まった新課程テストと大きく変わらない出題であったことは受験者にとっては取り組みやすかったと思われる。

昨年度から変更された出題フレーム「大問数8、解答数44」に変化はなかった。本文と設問及び選択肢を合わせた総語数にも大きな変化はなかったが、様々なテーマや形式の設問に対応するためには、受験者にとってはかなりの速読力が求められ、最後まで解き終えることができなかった受験者がいたことが予想される。一律な英文の読み方をするのではなく、素材となる英文の種類や示される図や資料等を理解し、目的に応じて様々な読み方をするのが要求され、設問の趣旨に合った読み方をしなければ時間が不足する。速読と精読のバランスの観点、特に思考力を測定する観点からすると、今後も語数を増やすことについては慎重になるべきである。情報量が増え、問題も複雑になり、短い時間の中で単に注意力や情報処理能力を測定するような試験に陥るのではなく、じっくりと考える時間を設定して思考力を十分に測るような試験問題であることが求められるのではないかと考える。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

令和8年度の共通テスト追・再試験『英語（リーディング）』は以下のような構成であった。

大問	内容	配点	設問数	解答数
第1問	Hobston市での修学旅行のツアー内容の説明書	6	3	3
第2問	レンタル自転車のサービス停止についてのウェブ記事	12	4	4
第3問	プラスチック・ゴミを食べる新種の魚についての話	9	3	6
第4問	音楽のポジティブな効果についてのエッセイ	12	4	4
第5問	日本の遺失物についての留学生とのメールのやり取り	16	5	6

大問	内容	配点	設問数	解答数
第6問	ある青年がヨガを学びながら成長する物語文	12	4	8
第7問	蚊の恐ろしさと撲滅に向けてのプレゼンテーション	16	5	6
第8問	オンライン選挙の是非についてのエッセイ作成	17	5	7

第1問 資料に示された事項についての情報の読み取りとその内容の読み取りに関する設問である。設問数は3問、配点は6点であった。実際のコミュニケーションで出会う様々な形式の情報を読み取り、その情報を基に必要な情報を把握する力が求められる問題である。本問の資料は、Hobston市で行われる修学旅行のツアーについての説明である。Tour 1とTour 2の2種類が示されており、その内容を設問の要求に応じて、正しく情報を把握する必要がある。

問1 Tour 1の内容を理解し、選択肢を照らし合わせていけば正答を得ることができる。選択肢も紛らわしいものはなく解答しやすいものであった。受験者にとっても取り組みやすい問題で、最初の問題はこういったレベルから始まることが望ましい。

問2 Tour 2の内容を問う問題である。美しい庭園の見学や、ダンス・パフォーマンスの鑑賞を行うなどの複数の情報を得ることによって、正答を得ることができる。ツアーの内容がどのような生徒にとって魅力的か、という設問は選択肢と資料を正確に把握する力が求められており、良問である。

問3 両方のツアープランに共通する内容を考えさせる問題である。非連続的な文章の読み取りをバランス良く問う問題であり、第1問の難易度としても適切で良問であった。選択肢も紛らわしいものはなく、取り組みやすい問題である。

第2問 資料に示された事項についての概要や要点の読み取りに関する設問である。設問数は4問、配点は12点であった。「意見」の内容が問われるなど、複数の情報を客観的に判断する思考力・判断力が求められる出題となっている。“Announcement: End of Service”というタイトルのウェブサイトの記事であり、大学が学生に対して自転車レンタルのサービスを中止する旨を伝えているものである。イギリスの大学が舞台となっており、“hire a bicycle”というイギリス英語寄りの表現も興味深く、本試験にも同じ傾向が見られる。

問1 大学側が自転車レンタルのサービスを中止した理由を問うものである。「維持費が嵩んでいること」、「返却がされないこと」の複数の情報をつかんで正答を得ることになる。学習指導要領においても「必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる」力を求めており、局所的な英文読解を求めるのではなく、概要や要点の把握を求めるこの種の問題は今後も出題していただきたい。

問2 学外の3つの自転車レンタルサービスについての内容を問う問題。読解するというよりは、見て分かってしまう内容であるため、やや平易過ぎたかもしれない。

問3 Gordonの「意見」を問う問題である。事実と意見を正しく捉える力は論理的なコミュニケーションを行う上で重要になる。今後もこの種の出題はお願いしたい。

問4 Mandyのコメントの内容について問う問題。コメント以外の箇所の情報も確認することが必要となり、複合的な読解を必要とする良問である。

第3問 物語文の内容について、登場する人物の心情を把握し、事象を時系列的にまとめることが問われている。設問数は3問、配点は9点であった。論説文風の書き出しと結びの間に、プラスチックごみを食べてくれる新種の魚が登場して話題となったが、1年後には全て死滅してしまった、というストーリーが展開し、やや不思議で独特な印象を与える文章であった。

問1 プラスチックごみの影響について問う問題である。第一段落を正確に読解できれば、正答

を得ることができる。

問2 設問文に「第2, 3段落の内容に基づいて」とあり、段落を指定する指示があった。これは本試験には見られないものである。作問上仕方のない部分もあるかもしれないが、必要な情報を把握する、という力を問うていることを考えると、やや前時代的な設問文であったように思われる。内容は、人々の心情変化を問うもので適切である。

問3 文章の内容を時系列的に捉えさせる問題である。選択肢にも紛らわしさはなく、取り組みやすい問題であった。

第4問 「音楽が与えるポジティブな影響」についてのエッセイを推敲していく過程で、先生のコメントを参考にしながら論理的な文章を完成させる問題である。第4問は言わば「読むこと」と「書くこと」の統合をねらいとした問題であり、新課程テストの言わば象徴的な設問である。

問1 先生の助言に基づき、ある文章についての例として適切な文章を選ばせる問題である。キーセンテンスに対する支持文を考えさせる問題であり、「書くこと」の力を問うていると言えなくもないが、実質的には読解力を問うていると見ることもできる。問1のような問題は標準的な読解問題でもよく見られるものである。技能を統合させて英語の力を測ろうとする方向性には大いに賛成するが、この種の設問でそれが実現できているとは言い難い。斬新な設問形式を開発し、新しい英語教育の方向性を反映させようとしているご苦労は大変なものであると拝察するが、発信技能の育成にはどのような出題が有効かを改めて考えていただきたい。

問2 段落の最終文がまとめとして不十分であるため、適切な文を選ばせる問題である。同段落の内容理解を前提に、文の「一貫性」を考えさせることを求めているため、「書く力」を問おうとする内容になっている。

問3 “The messages in songs can inspire them to speak up for change” という文についての追加情報を求める問題である。“speak up” という表現の意味を問うているとも言えるが、具体的な情報を示させるという意味では、問1に類似した問題とも言える。

問4 該当部分が「音楽が与えるポジティブな影響」としてのまとめとして適切なものとなっていないため、書き換えを求める問題である。全段落の内容を反映したものを選択することになるので、やや読解問題の性格を帯びたものである。

第5問 イギリスから日本の学校に来る予定の生徒JennyからのEメール、ブログ記事、そしてイギリス生徒への返信メールの3つの資料が示されている問題。問題数は5問で配点は16点であった。本試験では、複数の資料を活用し、複合的な作業を必要とする設問が見られたが、追・再試験では、単一の資料の参照で正答を得ることができるものもあり、やや淡泊な設問であった印象がある。問題作成の方針は同一であるので、追・再試験も本試験と同じ方向性を持つべきであると考ええる。

問1 JennyのEメールを読解できれば正答を得ることができる。選択肢も紛らわしいものはなく、取り組みやすい問題である。

問2 問1と同様に、同資料を理解できれば正答を得ることができる。

問3 ブログ記事の部分を読み取れば、正答を得ることができる。

問4 ブログ記事のコメント部分を読み取れば、正答を得ることができる。問1から問4については、標準的な読解問題の形式に近いものである。

問5 JennyからのEメールと返信したEメールの双方を検討する必要がある。意見の相違を見付け出すことが必要であり、複数の資料を活用することを求める良問である。

問5 本文、そして資料後半から読み取らせる問題である。複数の資料から必要な情報を見付け出す力は重要であるので、今後もこういった力を求める問題が出題されることが望ましい。

- 第6問 物語文を読み、その内容を正確に理解するとともに、事象を時系列で把握したり、その物語文についてのワークシートを完成させたりする問題である。設問数は4、配点は12点であった。
- 問1 登場人物のKenの性格を問う問題である。物語の全体を通して解答を考える必要があるという意味で良問である。ただし、選択肢で“delightful”, “careless”, “self-conscious”の3語を重複させているが、その意図はやや判然としない。
- 問2 事象の時系列の理解を問う問題。問題文に不必要な複雑さがなく、選択肢に紛らわしいものもなく、正しい内容理解を求める問題であり良問である。
- 問3 Kenの仕事に対する考え方に影響を与えた要因を選択させるものである。参照すべき箇所が局所的ではなく、物語の流れを理解することが必要であり、良問である。
- 問4 主人公の学びとなったものを答えさせる問題であるが、示されている物語文が、様々な場面転換がありながらも一貫性のある文章となっているので、全体をしっかりと読む必要があった。このように展開に無理がなく、かつ内容の充実した問題文を今後も期待したい。
- 第7問 まとまりのある文章を読み、必要な情報を整理しながら、プレゼンテーションを完成させる問題である。テーマは「危険な蚊」についてであり、情報を効率良く的確につかむことが必要であることから、段落の概要をまとめながら読んでいくことが求められている。設問数は5問、配点は16点であった。
- 問1 本文の第1段落の正確な読解を求める問題であった。選択肢も紛らわしいものはなく、取り組みやすい問題である。
- 問2 本文の第2段落の正確な読解を求める問題であった。必要とする情報がどこに示されているかを考えさせ、さらに概要や要点を考えさせる良問である。
- 問3 本文の第3段落の正確な読解を求める問題であった。この問題についても、情報を整理して要点をつかむことが求められている。
- 問4 “Wolbachia”という聞きなれないバクテリアを蚊のコントロールにどのような手順で活用するかを答えさせる問題である。該当する部分を正確に読解する必要があったが、複雑な表現等はなく、受験者も取り組みやすかったと思われる。
- 問5 結論部分の内容を選択させる問題である。最終段落の読解を求める問題であった。選択肢も紛らわしいものはなく、取り組みやすい問題である。
- 第8問 あるテーマに対して、複数の意見や資料について正確に把握し、エッセイを完成させる問題である。「オンライン投票」に関する5人の意見を読んで、3段階のステップを踏みながら自分のエッセイを完成させる形式である。「オンライン投票」というトピックが同時代的なもので大変好ましいものであった。5人の異なる立場を正確に把握しながら、求められている条件で設問に対応していくことは、受験者にとっても最終問としては時間との戦いがあったように思われる。
- 問1 高校教員のJosephのコメントの概要を答えさせる問題である。難解な語いや表現はなく、受験者も取り組みやすかったと思われる。
- 問2 市職員Alex, プログラマーIrinaに共通する要素を指摘させる問題である。複数の資料にあたって検討する必要がある、良問である。
- 問3 5人の中から与えられた自分の立場に賛同する人を2人選び、さらにその内容を問う問題である。5人の意見を要点をまとめながら効率良く情報をまとめていく必要があり、共通テストらしい作問となっている。今後もこういった傾向は維持していただきたい。
- 問4 まとまりのある文章であるSource Aから自らの意見の援用となる文を選択させる問題である。複合的な作業を必要とする良問である。ただし、正答②内の“while providing relevant safeguards”という表現は受験者にとってはやや難しかったかもしれない。

問5 4枚のスライドから得られる情報を答える問題である。3枚のスライドにはグラフが示されている。それぞれの情報を正確に読み取る必要があり、複合的なプロセスを伴う良問である。まさに共通テストらしい問題と言える。情報の整理には時間を要したと思われるが、選択肢の紛らわしさはなく、受験者の力を測る良問であったと言える。

3 総評・まとめ

本稿では2026年度（令和8年度）共通テスト『英語（リーディング）』（追・再試験）について検討してきた。大学入試センター発表の問題作成方針にも示されているように、「深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」という方針での問題作成には、大変なご苦労と創意工夫が必要とされると拝察する。様々な資料や図表を通して英文を読み、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっており、また、外国語に関する様々な知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける、という学習指導要領における目標を反映した出題となっている。受験者が身に付けた力を十分に発揮できる良問も多い。さらに、昨年度からは新しい学習指導要領のねらいを反映した問題形式が出題されるなど、改善への高い意識を感じさせるものであった。しかし一方で、技能統合的な理解を求める問題や、発信技能をより育成するための問題においては、その試みが十分に目的を達せられたかにはまだ議論の余地がある。また、本試験では平均点が上昇したことから受験者にとっては取り組みやすいものとなったが、大問数は8問と多く、求められる力の幅が広がり、時間内に解答することに苦労した受験者も少なくなかったと思われる。今年は選択肢の紛らわしさや、単に作業量が増えることによって生じる負荷は少なかったが、今後も受験者がその力を最大限に発揮できるような作問をお願いしたい。さらに、本試験と追・再試験の形式の相違について、特段の理由がなければ、均質性・公平性の点からも余り大きな相違は望ましくないため、その点は引き続きご留意いただきたい。なお、昨年度の第5問は本試験と形式が異なっていたが、今年度は第1問、第8問のイラストや表の構成、第5問の形式の若干の相違に留まり、本試験との均質性は上がっていた。扱われる英文については、その題材や形式については幅広いものとなるように今後も検討をお願いしたい。そうしたことによって、教員の実際の指導や生徒の学びもより豊かなものになっていくと考えられる。

4 今後の共通テストへの要望

報告書（本試験）の方に記載。